

# 学校二学期制の概要

## 1 学校二学期制とは

- 1年間の授業日数（およそ200日程度）を、前期と後期の2つの学期（それぞれ100日程度）に分ける制度。年間の授業日数は現行の三学期制と変わらない。

## 2 前期・後期の分け方

- 10月の「スポーツの日」を含む三連休の前後で学期を分けて実施している市町村が多い。
  - ・前期 4月1日～10月第2月曜日前日まで 例) R4年度 4/1(金)～10/7(金) 96日
  - ・後期 10月第2月曜日～3月31日まで 例) R4年度 10/11(火)～3/31(金) 104日

## 3 長期休業について

- 現行と変更なし ※学期を分ける「秋休み」は配置しない。
  - 学年始休業 4月1日～4月5日 夏季休業 7月21日～8月31日
  - 冬季休業 12月25日～1月6日 学年末休業 3月25日～3月31日

## 4 学校二学期制導入による変化

**【変化1】** 終業式と始業式の回数がそれぞれ1回減る。

**【二学期制メリット】** ゆとりをもって各教科の授業を進めることができる。

- (1)子どもたちは夏季休業、冬季休業直前まで落ち着いて学習に取り組むことができる。
- (2)授業の進め方が調整しやすくなることで、子どもの理解度・到達度に応じた補充や発展学習を取り入れやすく、より丁寧な指導を行うことができる。
- (3)小学校のプログラミング学習や外国語活動・外国語の増加への対応にも時間的なゆとりが生まれる。

**【三学期制のメリット】** 学校の生活リズムにメリハリがある。

- (1)三学期制では長期休業が学期の区切となるため気持ちを締める（生活リズムを戻す）きっかけが作りやすい。

**【変化2】** 通知表の回数が年間3回から2回になる。

**【二学期制メリット】** 教師は教材研究に時間をかけたり、児童生徒とじっくり向き合ったりする時間を確保することができる。

- (1)通知表作成業務や進路事務（調査書作成等）、部活動大会が重なる長期休業前の業務を平準化することによって、教師が子どもとじっくりと向き合う時間を確保できる。
- (2)教師に時間的なゆとりが生まれることで、今まで以上に子どもへの個別の支援や対応に力を注ぐことができる。
- (3)通知表作成業務によって行事を配置しにくかった長期休業前の7月や12月にも行事を計画しやすくなり、行事の分散化や特色ある学校づくりに生かすことができる。

**【三学期制のメリット】** 通知表による児童生徒の総合的な成績の状況を確認する機会が多い。

- (1)長期休業前に通知表で成績を確認し、休業中の学習に対策を講じるなど、休業明けに向けて、てこ入れを図るためのきっかけがつけられる。

## 【 総 括 】

☆二学期制の導入により、教育活動全般に時間的・精神的な「ゆとり」を生み出すことで、通常の学習をこれまで以上に充実させたり、教師と児童生徒がふれ合う時間が増えたりすることで、より丁寧で、きめ細やかな指導ができるようになると思う。

### 5 2学期制に関するQ & A

Q：子どもたちの毎日の学校生活はどうなる？

A：学校での日常生活は大きく変わらない。学校では二学期制に合わせた年間スケジュールを組み直し、子どもたちはこれまで通り計画的に授業や行事に取り組むことになる。

Q：長期休業前に通知表がないのが心配

A：個別面談を設定し、子どもの学習面や生活面、諸活動の様子について保護者と情報共有する。取組状況を踏まえて、長期休業中の学習や生活、地域での活動について助言したり話し合ったりする。

Q：中学校では定期テストの回数が減ることで、テスト範囲が広がらないか？

A：定期テスト（中間・期末）の時期も二学期制及び学校の実態に合わせて組み直す。単元毎のテストや小テストを行うなど、テスト範囲が過度に広がらないような対策を講じるとともに、適正な評価につながるようにする。

Q：中学受験、高校受験への影響は？

A：影響はない。受験期直前の12月の事務作業が軽減されることで、教師は児童生徒に対する個に応じた指導や進路相談の時間を確保できる。

Q：部活動の大会日程等で問題はないか？

A：現時点で支障を来すことはないと思う。

Q：地域への影響は？

A：二学期制導入に伴う学校行事の時期の見直しが行われることで、地域とともにつくる行事（運動会、文化祭、学習発表会等）の開催時期の変更を検討する可能性がある。保護者・地域・学校で十分相談して決めていく。

#### <令和4年度（2022年度）の授業日数例>

